訪問先で子どもと遊ぶ大学生

育児の魅力 大学生実感

大学生が子育て家庭に出向き育児を体験する「一日パパ・ママ体験」の報告会が３月８日、神戸市中央区の神戸クリスタルタワーで開かれた。同事業は核家族化が進む中、将来の結婚や子育てに不安を抱く若者に育児を身近に感じてもらおうと、兵庫県と神戸新聞子育てクラブ「すきっぷ」が連携して取り組んでいる。2016年度からスタートし今年で２年目。学生たちは報告会で、家庭での体験や育児への思いをいきいきと発表。体験後のアンケートでは81％の学生が「育児に対する不安が軽減された」と答えるなど、子どもと触れ合うことで子育てへの意識が変化することを示す報告会となった。詳細は神戸新聞子育てクラブ「すきっぷ」のサイトに掲載。「一日パパ・ママ体験」で検索を。

「一日パパ・ママ体験」報告会　神戸市中央区

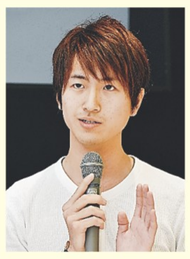
パネルディスカッション参加者

伊藤　篤さん　神戸大学大学院 人間発達環境学研究科教授（コーディネーター）

北川　恵さん　甲南大学文学部教授 人間科学研究所所長

高田佳代子さん　Ｂａｂｙガーデン 代表理事

亀野　規子さん　子育て家庭代表



松田　成仁さん　神戸大学発達科学部 人間形成学科２年

早川陽菜紀さん　兵庫教育大学 学校教育学部 学校教育専修 幼年教育系コース２年

県内7大学70人が参加

兵庫県内の大学に通う学生が2人一組で乳幼児のいる家庭を訪問、子どもと遊んだり食事の世話をしたりして育児体験をする取り組み。本年度は兵庫教育大など7大学の協力で約70人が子育てを体験した。報告会には学生のほか、約30組の親子を含む約１２０人が参加した。

報告会に先立ち、神戸親和女子大の協力で親子参加のワークショップが開催された。子どもたちは学生の歌に合わせて手遊びや歌遊びをしたり、パラバルーンの中に入って遊んだり、元気いっぱいに楽しんだ。

報告会では、５大学10人の学生たちが子育て訪問の体験談を語った。甲南大大学院人文学科研究科1年の西川友貴さんと兒玉樹さんは「訪問した家庭のお母さんが『保育所に預けたとき、自分の時間が持ててとてもほっとした』と言われたのが印象的だった。保育所に預けることにマイナスイメージを持っていたが、預けてもいいんだと思った。ご主人もとても協力的だった。将来は施設や周りの人の力を借りて仕事と子育てを両立させたい」と話した。

夙川学院短期大児童教育学科3年の元木希さんと小石綾乃さんは昨年8～12月に計5回、同じ家庭を訪問した。「寝ていた子どもが次はお座り、次はつかまり立ちと、行く度に成長する姿に驚いた。子育ては大変そうと思っていたが、お母さんが家にママ友を呼んでカレーやおやつを作る姿を見て、楽しみだと思えるようになった。お母さん同士のつながりもあり世界が広がりそうだ」と感想を述べた。

うた遊びで楽しむ親子

パラバルーンで遊ぶ子どもたち

北川さん　イメージを描く機会に

続いて「私たちの結婚観、子育て観」をテーマにパネルディスカッション。

伊藤　今の学生の子育てについての考え方は。

北川　子どもが好きだが、子育ての具体的なイメージを持てない、不安を感じるという学生もいる。不安は責任感の裏返しだ。子育ては大変だが喜びも大きい。子育てへの関心が高まる大学生の時期だからこそ、体験する機会を持つのはいいことだ。

松田　子育てが不安なのは子どもと触れ合う機会が少ないから。今回の体験はとてもいい機会になった。所属しているグループなどで意識的に子どもと触れ合う機会を増やしていきたい。

早川　子育て体験を通じて子どもには家族の存在がとても大きいと感じた。どう接したら笑ってくれるかなど、いろいろ試してみると発見があり、子育てには試行錯誤が大切だと思った。

伊藤　家族が心理的な安定につながること、トライアンドエラーを繰り返して親になることを、実際に子育て家庭を訪問することで感じられたようだ。

亀野　1歳10カ月の男の子を育てている。学生さんにパズルで遊んでもらったり、私以上に褒めてもらったりと、子どもにとってとてもいい経験だった。お別れは大泣きになった。学生さんたちは子育てで自分の時間がなくなることに不安を感じているようだ。しかし、ママ友と会話し、子どもが寝てから自分のペースで好きなことをするなど、リフレッシュの方法はたくさんある。

伊藤　学生は子育て中の母親に疑問をぶつけることで、問題を切り抜けるいろんなヒントが得られる。素晴らしい機会だったと思う。

高田　最近、テレビドラマでママ友同士のトラブルが取り上げられ、現実以上に不安視している学生が多い。一方、おしゃれでキラキラしている子育てママの様子も雑誌や会員制交流サイト（ＳＮＳ）で紹介されているが、それも一面的だ。実際、しんどくて泣きそうなときもあるが、子育てしているからこそ得られる感動もある。

伊藤　子育て中の母親として学生にメッセージを。

亀野　私も以前は自分に子育てができるのかと心配だった。今、子育て2年目だが、自分だけが頑張るのでなく、夫やママ友に手伝ってもらえばいい。子どもができて、これほど自分を求められたり愛されたりした経験はないと感じる。子どもの成長は大きな喜びだし、私でなければできないことをしていると思う。主人が子どもと接するときの優しい顔や声はこれまで知らなかったもの。大きな幸せを感じる。

伊藤　学生は子育て体験を通して意識が変化した。今後どうしたいか。

早川　「子どもがかわいい、大好き」という気持ちがあれば十分なんだと、体験を通して教えてもらった。訪問した家のお母さんを見習い、スキンシップや言葉で愛情を伝えたい。

松田　自分が親になったときのイメージがわいた。お父さんが仕事の時間を調整してでも子育てすることが大切と感じた。この活動をもっと広めていきたい。

高田　学生の皆さんには、体験で「学ぶ」のではなく、子どもとの「楽しい思い出」をたくさんつくってほしい。それが結婚、子育てへの前向きな気持ちにつながると思う。

伊藤　この取り組みをどう発展させるべきか。

北川　専業主婦、共働き、と将来の選択肢は多彩だが、自分なりのライフプランを選べばいい。甲南大学でもこの取り組みに協力していきたい。

伊藤　統計では6歳未満の子育て世帯は10％を切っている。小さい子どもを育てている家庭は多くないのが現状だが、学生たちには子育て家庭に共感できる人になってほしい。

亀野さん　夫やママ友巻き込んで　愛情伝えられる母親に　早川さん

松田さん　父親の子育て参加大切

高田さん　楽しい思い出を重ねて　家庭に共感する心養う　伊藤さん

子育てが楽しくなる情報サイト

神戸新聞子育てクラブ

すきっぷ

すきっぷは、プレママ・プレパパをはじめ、子育てにかかわる人々が集まり、地域から「子育てを楽しくする情報」を共有して発信するコミュニティサイトです。子育ての楽しいひとときをみなさんで共有しましょう！

もっと つながる 子育て

すきっぷ　神戸新聞　検索

お出かけ&イベント

ベビーカーで行ける！近くのイベントを探そう！

地域の子育て団体おすすめのイベントを紹介しています。

聞いて&教えて

子育てのアイデアみんなで共有！

ちょっとした悩みが聞ける掲示板。専門家アドバイスも。

ニュース&ブログ

妊娠、出産、子育てに関する地域の話題

兵庫県内の地域に密着した情報を提供します。

会員限定のイベントやプレゼントも用意しています

入会無料。会員になるとメリットいっぱい！

スマホからも 使えます

http://mintclub.kobe-np.co.jp/skip/

お問い合わせ：神戸新聞地域総研　TEL：078-362-7079